多摩川ホールディングスがソーラーシェアリング事業参入

静岡県島田市に406キロワット発電所3月完成へ

多摩川ホールディングス（代表取締役社長・桝沢徹）はさきごろ、静岡県島田市に営農型発電事業（ソーラーシェアリング）の用地を確保し、太陽光発電所の建設を開始した。3月下旬に完成を予定しており、4月以降に売電を開始する見込み。

確保した事業用地は農地で、土地所有者と21年間の区分地上権設定契約を結んだ。土地面積は4626平方メートルで、設置する太陽光発電システムの出力は約406キロワット、売電価格は1キロワット時あたり36円なる。太陽光発電システム設置後は、農地でサカキ（榊）を栽培する。

営農型発電の助言を行ったスマートブルー（静岡市）が関与したソーラーシェアリングの例（出所：多摩川ホールディングス）

ソーラーシェアリングは、営農収入と太陽光発電の売電収入の両立により事業性を高め、営農を継続的に実現することができる仕組み。農業従事者の減少や増加している耕作放棄地の再生といった課題解決に、大きく貢献する取り組みである。

同社グループは今後も地域に密着した再生可能エネルギー発電所の開発を加速させて、CO_2削減はもとより、地域や社会に貢献し、「環境事業の総合商社」を目指す。